

山の手だより

No
21

いきいき 三角山フェスタ開催



TAKE FREE

ご自由にお持ち帰りください

21号目次

まいにちから、
まんいちまで。

イベント

巻頭言「ごあいさつ」	北海道医療センター附属 札幌看護学校 副校長 鈴木 佳子	2P
看護の日イベントを振り返って		3P
いきいき三角山フェスタ開催 体験・見学コーナー	経営企画室長 山我 健	4P
ステージ・三角山登山		5P
		6P

インフォメーション

診療科のご案内

手洗い・手荒れ防止コーナー	感染管理認定看護師 加藤なおみ・松永正美	7P
三角山に登って	教育担当看護師長 横山 亜弓	7P
防犯対策訓練		8P

巻 頭 言



ごあいさつ

充実した学習環境の提供に
努めています。



北海道医療センター附属
札幌看護学校

副学校長
鈴木 佳子

冬の気配が日に日に色濃くなる季節となりました。

北海道医療センター附属札幌看護学校は、平成15年4月に札幌市内の国立札幌病院（現北海道がんセンター）、国立療養所札幌南病院、西札幌病院附属の看護学校を統合し、1学年80名、総定員240名となり、平成22年3月に病院名の変更に伴い現在の学校名になりました。当校は、昭和18年に開校された、歴史のある看護師3年課程の専門学校です。統合前の3つの学校と現在の学校を併せ、5千人以上の看護職員を輩出しています。実習施設の指導者、看護師長、看護部長の多くは卒業生で、学生の実習を見守り、指導しています。

当校は、学校施設・設備だけでなく実習施設も札幌市内に確保し、充実した教育体制を整えています。主な実習施設は、北海道医療センターと北海道がんセンターで急性期から慢性期そしてがん看護まで専門的な看護を学ぶことができます。

卒業後の進路は、北海道医療センター・北海道がんセンターを含む総合病院・大学病院やナショナルセンターなどの専門病院への就職、助産師・保健師の学校へ進学、また、大学の3年次に編入学する者と道は分かれています。

看護を必要とする人々のそばで看護実践をする人材の育成のため、高い看護実践力を身につけられるよう知識と技術そして心を育む教育を目指して、より良い学習環境の提供に努めています。インターンシップ（7月末頃）や学校祭（9月中旬）を利用して、是非、学校を見に来て頂きたいと思っております。



2017年9月9日

「看護の日」のイベントを振り返って

5月12日はナイチンゲールの誕生日でありその日は「看護の日」となっています。それにちなみ当院では看護の日のイベントとして、入院している患者様および外来通院されている患者様にポケットティッシュにメッセージカードを添えてお配りしました。患者様からは普段なかなかゆっくり話せなかった看護師とも話せて距離が近づいたなどの言葉もいただきました。人と人が接する看護という職種で、今回のようなイベントを通して、自己の看護の心を振り返る機会となりました。今後さらに患者様の心に寄り添えるような看護を目指していきたいと思います。

平成29年 ふれあい看護体験

平成29年5月12日にふれあい看護体験があり、3校から将来は看護師を希望という18名の女子高生の参加がありました。

院内見学の後、患者さんとの散歩や、食事介助、足浴など、実際のふれあいの体験を通して、短い時間の体験でしたがコミュニケーションの楽しさと難しさを学んでいた様子でした。

「普段はできない経験ができた」「いくつか看護体験に参加したが、深く患者と関わったのは初めてだった」「看護師になりたい思いが強まった、当院の看護師の様になりたい」といった嬉しい感想をいただきました！

私たちも元気を分けていただき、良い経験になりました。ご参加ありがとうございました！

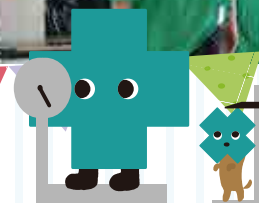


第5回 / いきいき

三角山フェスタを開催しました！

9月9日(土)10時～14時、今回で第5回目となる「いきいき三角山フェスタ」を当院外来ホールで開催しました。

天候にも恵まれ、去年の約1.5倍の480名ほど、幅広い年齢層の方にご参加をいただきました。



6月ころから準備をはじめ、各職場の実行委員を中心に実行委員会を2回ほど行い、去年のアンケートのご意見などを参考にして、多くの方々に当院を楽しみながら知っていただける企画の募集や検討を行いました。今年開催日が9月9日で「救急の日」でもあることから救急や災害に関連する企画やブースなどを増やしてはどうかとの意見もありました。

救急の日に関連する企画としては、昨年から実施しておりますミニ講演会の中で、熊本震災時に北海道医療センターDMATとして参加した藤岡診療看護師(JNP)より「災害にあってしまったら～熊本地震をふまえた北海道医療センターの役割」と題して、札幌市で急な災害が発生した場合に北海道医療センターが担う役割などをわかりやすく説明しました。ミニ講演はほかに、水品言語聴覚士より「誤嚥性肺炎とは」、木村検診センター長より「検診と健診について」の計3題を行い、皆さんメモを取るなど真剣に聞いていました。

たくさんのコーナーが盛り上がりました！

企画の中でも、**体験コーナー**は例年非常に人気が高く、縫合手技・気管挿管・内視鏡手術体験（医師）やおくすり調剤体験（薬剤師）といった病院の職業を体験できるコーナーや救急車乗車体験などは、子ども達の長い行列ができていました。

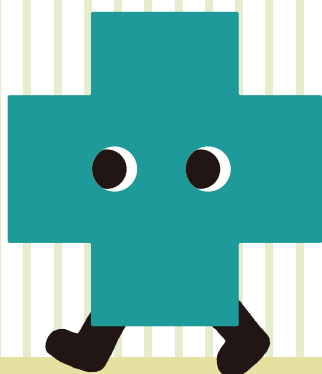
今年は新たな企画として、重りの入ったサポーターなどを装着し高齢者の体の動きや視野の狭さを体験する高齢者疑似体験コーナーや、電動車椅子の運転を体験してみるコーナー、大人が体験できるコーナーとして、乳がんモデルを使用した乳がんセルフチェック体験も多数参加をいただき好評を得ました。



普段見ることのない病院の裏側を見てもらおうと「**病院見学**」も行いました。

当初は「ER」、「手術室」、「放射線科」など5カ所を各班10名定員で2班行う予定でしたが、申込みが多く急遽、1班増やし3班で行いました。

急患などで見学する事ができない場所もありましたが、見学した場所での職員や研修医の先生方の丁寧な対応やわかりやすい説明に、参加された方々は皆満足されていました。



たくさん
来てくれて
ありがとう！



その他にも「病院食を食べてみよう」では、エビピラフ・かぼちゃポタージュ・さけの竜田揚げの3種類を200食分用意しました。引換券はすぐになくなってしまい、お昼には食事スペースを増やして対応しました。子ども達も美味しそうに食べていました。

ご自宅でも、作れるようにレシピも配布し喜ばれました。

お昼のメインステージでは、バルーンアーティスト♪あいさんによるステージパフォーマンスが行われ、子ども達は病院食を食べながら目を輝かせて見ていました。

次々にできあがっていく作品を50名の子ども達にプレゼントしました。



職員と一緒に三角山に登る「みんなで三角山!ヘルシートーク&エコウォーク」も、今年は9名の参加となりましたが、今回も20代から60代まで幅広い年齢層の方々が登り、怪我もなく全員無事に帰ってくる事ができました。



イベントの最後には長尾副院長を中心に、ラ・フォル・ジュルネ「熱狂の日」と題し室内楽コンサートを行いました。

ピアノとヴァイオリン、弦楽四重奏による日本の名曲メドレーなど、来場された方だけでなく入院中の患者さんも心癒やされる時間を過ごしていただけたと思います。



ご参加いただいた方々からいただいたアンケートでは「来年是非また来たいと思います」「子供が楽しめるイベントが多く、病院が苦手な子供でも好きになるきっかけになるかも」「病院食が思いのほか、おいしかった」など、私たちも大変嬉しい感想や「健康相談コーナーがあると良い」、「体力測定コーナーがあると良い」などの参考となるご意見もいただきました。

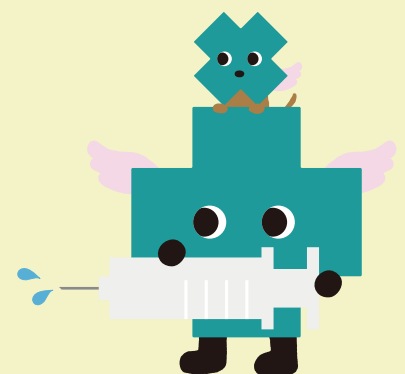
今後も地域住民の皆さまに喜んでいただけるイベントを企画していきます。

(文責 経営企画室長 山我 健)

診療科

内科	糖尿病・脂質代謝内科	腎臓内科	精神科	神経内科
呼吸器内科	消化器内科	循環器内科	アレルギー科	リウマチ科
小児科	外科	整形外科	脳神経外科	呼吸器外科
心臓血管外科	小児外科	皮膚科	形成外科	泌尿器科
婦人科	眼科	耳鼻いんこう科	リハビリテーション科	放射線科
麻酔科	救急科	総合診療科	病理診断科	【全29科】

INFORMATION



手洗い・手荒れ防止コーナー

感染管理認定看護師 加藤なおみ・松永正美

手洗いとハンドケアはきってもきれない関係です。寒くなってくると皮膚の新陳代謝が低下し、特に乾燥しやすい手は手荒れなどのトラブルが起きやすくなります。手荒れは手を洗った後の余分な水分が残りやすく、菌が住みやすい環境となります。

そのため、手洗いをより効果的なものにするためには、日頃のハンドケアが大切になります。そこで、今回は皮膚排泄ケア認定看護師と共に、「手洗い体験&ハンドケア(マッサージ)」を行いました。大人だけでなく小学生の皆さんからも好評をいただき、来年度に向け、担当者の増員・ブースの拡大を計画しております。



三角山に登って

教育担当看護師長 横山 亜弓

三角山は病院の後ろにある名前のとおり三角形に見える標高311mの山です。

今年は地域住民の方々と引率の病院職員17名での登山。

前日の雨もあり足元が少し滑るような状況で、勾配が急な所では声を掛け合いながら、和気あいあいと笑いありで歩を進めていきました。

山腹から見える海や山頂からの札幌の景色とアウトドアでの程よい疲労感で楽しい時間でした。参加者が全員元気に登頂・帰還することができよかったです。



防犯対策訓練

7月31日に当院の近隣にある北海道札幌方面西警察署の飯塚さんを講師としてお招きし、不審者対応訓練を行いました。

当日は42名の職員が参加し、講義・実習も交えて1時間ほどの訓練となりました。

実習では、手や体をつかまれた際の対応や“さすまた”を使った不審者対応等実践的な内容となっており、院内だけでは無く、夜間に勤務交替のある看護師にとっては、院外での日常生活においても非常に参考になる訓練となりました。

訓練終了後には、不審者が入れないシステム作りが必要、置き引きの対策も知りたい等、これからの安全管理や研修についての意見がありました。

引き続き、防犯対策訓練を実施していきたいと思えます。



発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
 発行責任者 / 事務部長 宮前 英俊
 発行日 2017年11月発行

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
 電話(011)611-8111 / FAX(011)611-5820
 ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc>

まいにちから、
 まんいちまで。

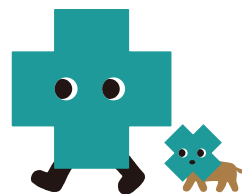


独立行政法人 国立病院機構

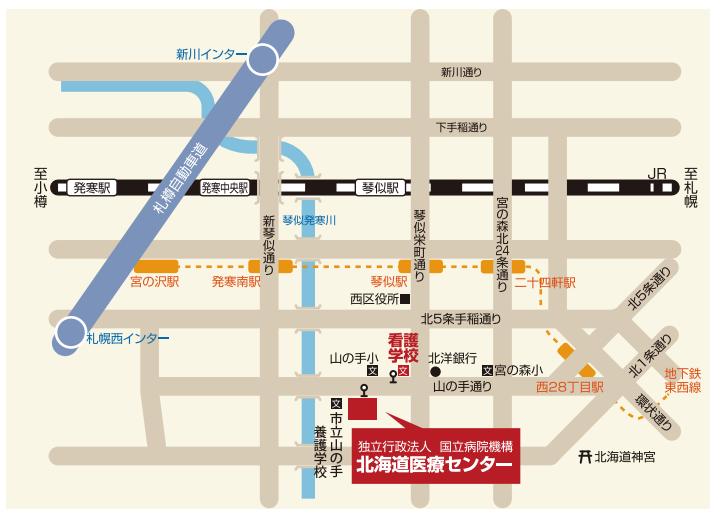
北海道医療センター



TEL 011-611-8111



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号



●交通のご案内

地下鉄東西線 西28丁目... 山の手線 北海道医療センター前下車
 西21 山の手線 北海道医療センター前下車

地下鉄東西線 宮の沢駅... JRバス 西21 山の手線 北海道医療センター前下車

地下鉄東西線 琴似駅... JRバス 琴43 西野中州橋線 北海道医療センター前下車

JR JR琴似駅... タクシーご利用の場合
 ◎JR琴似駅より.....約1,200円前後
 ◎地下鉄琴似駅より.....約1,000円前後

車で... 旭川・苫小牧方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道新川インターから新琴似通り経由、山の手通り沿い
 小樽・余市方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道札幌西インターから北5条手稲通り、新琴似通り経由、山の手通り沿い

<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>

北海道医療センター

検索

